

チームオレンジ ~ このまちで自分らしく生きていく ~



1. 基本情報(令和6年12月現在)

市・町名	五島市		
人口	高齢者人口	高齢者率	面積
33733人	14424人	42.76%	420.12km ²

2. チームの概要

チーム名	「おれんじの樹」果樹園ごとう		
開始時期	令和4年10月31日 ~		
実施主体	☒ 市町 ☐ 地域包括支援センター ☒ 住民・ボランティア ☐ 社会福祉協議会 ☐ その他 ()		
チームオレンジ コーディネーターの属性	認知症地域支援推進員 1人		
メンバー構成	チームオレンジ「おれんじの樹」果樹園ごとうに登録申込みされた市民 40人		
活動頻度	・声掛け、見守り訪問 年2回程 ・認知症啓発活動(R6年度は映画オレンジ・ランプ上映に協力) 5回 ・研修会参加 年1回程		
チームオレンジの類型	☐ 第1類型 共生志向の標準タイプ ☐ 第2類型 既存拠点活用タイプ ☒ 第3類型 拠点を設置しない個別支援型タイプ ☐ その他		
チームオレンジ三つの基本について	☐ 3つの基本を満たしている ☒ 3つの基本は満たしていないものの仕組みが構築されている。		
運営財源	☐ 市町からの委託 ☐ 市町からの補助 ☐ 会費・参加費 ☒ その他 () 上記の財源 ☐ 市町一般財源 ☒ 地域支援事業交付金 ☐ その他 ()		

3. チームオレンジの設置に至ったプロセス

- ・認知症サポーターは増えたが、具体的な活動に繋げるための支援を行っていなかった。五島市は高齢化率が高く、地域共生社会の実現には地域の住民さんの力が欠かせないと考えた。
- ・認知症施策では本人の声が大事と言われており、グループホームや認知症サポーター養成講座で、認知症の本人の気持ちを1つのおれんじの実に、支える人の気持ちを1枚の葉っぱ記入してもらい、1団体1本のおれんじの木をつくった。
- ・令和4年7月にステップアップ講座を実施。同年10月にチームオレンジ立ち上げの研修会を実施した。長崎県オレンジチューター派遣事業を活用し、チームオレンジとは何か講話をしていただいた。また、おれんじの木を見てもらい、認知症の人の気持ちを知らせてもらった後に、地域の人ができるか考えるグループワークを行った。研修会終了後に、チームオレンジへの登録者を募った。



4. 活動内容

これまでの活動内容

声掛け・見守り訪問、認知症カフェや認知症家族会での支援、認知症啓発活動(R6年度に映画オレンジ・ランプ上映に協力)、研修会参加

5. 活動を進めて行く上で工夫したこと・配慮したこと

県内でも詐欺被害は増えており、声掛け訪問を行ううえで、チームオレンジを周知してほしい、身分が分かるものがあつた方がいいという意見があがった。活動時につけられる名札やベストを作製。市のSNS等を活用し、チームオレンジや声掛け・見守り訪問等の活動について市民へ周知を行った。



6. ステップアップ講座の開催状況・講座内容について

R6年度は、長崎県オレンジチューター派遣事業を活用したステップアップ講座を実施。その他、認知症地域支援推進員が講座に申込みがあつた団体へ実施している。講座内容は、認知症の理解とチームオレンジに関するものだった。

【R6年度】実施回数3回、参加者71人、チームオレンジ登録者4人(2/21現在)

7. 活動してきたことで得られた効果・見えてきた課題

【効果】

- ・声掛け訪問では、「寄ってもらって、声かけてもらってありがたい」「ありがとうね」と高齢者が訪問を喜んでくれている。
- ・研修会や活動をととして「地域での支え合いが大切」「できることを続けたい」と思ってくれたチーム員がいること。

【課題】

- ・声掛け訪問では、ニーズの把握や必要な支援へつなぐところは、まだこれからという段階である。
- ・活動は地域に偏りがあり、できる地域から実施している状況である。

8. チームのアピールポイント

研修会のグループワークでは、どのグループも話し声がにぎやかで、決められた時間をオーバーするほど熱心なメンバーです。

9. 今後の活動について

声掛け訪問でのニーズの把握など課題はあるが、チームメンバーで集まり話をする機会をつくり、活動継続したい。できることをやっていく。